

第 12 分科会

生活指導・自治的活動

一人ひとりの思いを大切にした

学級づくり その②

～書くこと、読み合うことを通して

H31・R1年度～

組織・団体名：岐阜教組 恵那支部

報告者：佐々木 真

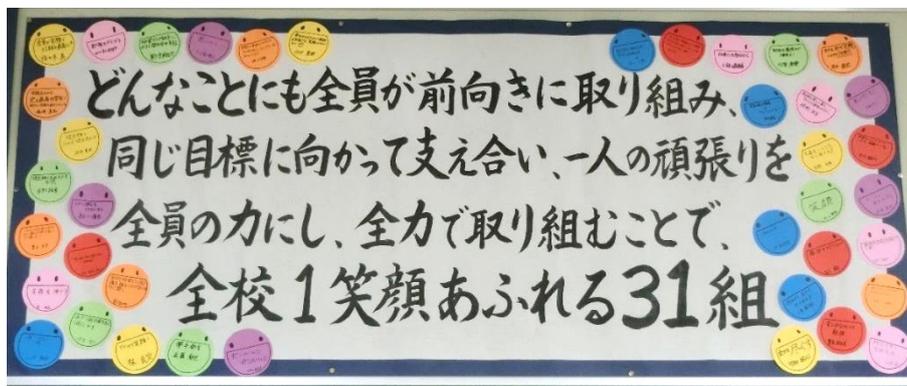
# 一人ひとりの思いを大切にした学級づくり その2

～書くこと、読み合うことを通して～ H31・R1年度

岐阜教組 恵那支部 佐々木 真

## 1. はじめに

本校に赴任し、6年目が終わろうとしている。中学1年生から担任した子どもたちとも卒業までのカウントダウンが始まり、毎日、子どもたちが書いたカウントダウンカレンダーを教室に一枚ずつ掲示しながら残りの日々を大切にしたいと感じている。



昨年度、この子どもたちとの中学1年からの日々を記録としてレポートにした。そしてこの1年、子どもたちとの関わりをさらに大切にしながら、一人ひとりの思いをわかり合える学級づくりを心がけてきた。

本学級 男子19名 女子17名 その中で、3年連続担任している生徒は4名。中2、中3と2年連続担任している生徒は7名。1年ぶりに2回目の担任をしている生徒は9名。36名中、20名は、一度は担任をしている生徒という状況で今年度をスタートさせた。

A男・・・小学校ではとても元気に生活をし、なかなか落ち着かない日々を過ごしてきた。しかし、中学生になり、野球と勉強とを両立させ、高校野球をしたいという目標をもちすごそうとしている。中学1年の時に一緒に考えた3年計画を実行中。(中1 数学係/班長 中2 班長/班長 中3 学級委員/生徒会副会長) 保護者共に、学校、教師に対する不信感が強い。小学校の時には学校から電話には出ないという引き継ぎがあった。身長192センチ。

B男・・・学習にも生活にもなかなか前向きになることができない。頑張りたいという気持ちはあるけれど、うまく回らない。どんなところでも中心になりたいという思いが強い。仲間からの信頼を得ることが難しい。中2では、男声パートの代表としてソロ(複数)を務めたり、大縄の回し手(練習はほぼしない)を務めたりした。学校内外問わずトラブルが多い。

C女・・・A男と一緒に小学校では要援助生徒であった。学級や学年を負の方向にリードしてしまうなど影響力の大きな生徒。女子の派閥の中心にいるが、面倒な人間関係をなくしたいとも感じている。姉(高3)を3年間担任し、C女も3年目の担任。認められたいという思いも強く、班長や学級委員などを務めている。周りへの影響力は学年トップ。(中1 学級委員/委員会 中2 班長/委員会 中3 学級委員/生徒会長)

## 2. 担任のピンチは子どもたちのチャンス??らしい。

3年生。

始業式。学級の張り出し名簿を見たC女は、生徒玄関で「無理！絶対に無理！このクラス嫌だ！」と泣き崩れた。不登校気味の生徒や相談室対応があった私は、担任発表前の学級の様子を十分見ることも出来なかった。でも廊下でも泣いているC女のことをどうしても気になり、声をかけた。

佐々木「どうしたの??」

C女「本当に無理。だってB男がまたおるもん。」

佐々木「大丈夫だって！Cなら一緒にやっていけるよ！」

C女「同じ空間にいるってだけで無理だもん。去年だって本当に嫌なのに我慢したんやよ。」

佐々木「そんなこと言わんといてよ。私もどんな形でもサポートするし！」

C女「どうせ、先生は、うちら一緒にして自分で担任するつもりやら?こんなクラス、先生が担任に決まるとるやん!!」

佐々木「…。」(私が泣きたい。)

そんなC女の様子を教室の中から不安そうに見つめるB男の姿もあった。気付いていたはず。

そして迎えた始業式、担任発表、学級びらき。クラスの子どもたちはほぼ全員、私が担任であると確信していたと話してくれた。

学級びらきでは、1年生のはじめに行った「わたしはひろがる」の詩を読み、みんなで「ひろがる」ってどういうことだろうと考えた。もちろん、全員発表。「話します!」「はい」という声をかけながら、いつの間にか温かい雰囲気ですべて1時間を終えていた。翌日に行われる入学式の準備のために体育館へ移動。誰よりも椅子を多く運んでいた超人的な働きをしていた人として、A男とB男が全体で誉められるという嬉しいスタートだった。

そして、学級組織決め。A男は3年越しの学級委員に立候補し、C女と共に学級を引っ張ることになった。B男は班長に立候補したものの2票差で落選。その後、合唱委員に立候補。学級の前で「ノリで立候補しました」と話し、学級が凍る…という状況も作り出した。結局「やっぱりやりたくない」というB男の発言に、A男がクラスの男子全に声をかけ、B男は教科係を務めることになった。全員の役職が決まり、ホッとしている時に、大きな声でB男が「俺、体育大会は団長をやるわ!」そんな言葉に再び、しずまりかえる学級。これから、どのように仲間との関わりを作っていくか、B男自身に気付かせていくか、やる気にさせていくかが必要だと感じた1週目だった。

佐々木「何で、合唱委員やらなかったの?本当は、票は言わんところと思ったけど、班長、2票差やよ。」

ここで頑張っておけば、みんなからの信頼も高まって、体育大会のリーダーとかも近づいたんやないの??

B男「だって、合唱やっていく自信が急になっちゃったんやもん。」

佐々木「あ～あ、もったいない。」

B男「でもさ、本気で3年生頑張るわ!理科係やけど、他のことも頑張るし。」

佐々木「まあ、いいよ!そうやって頑張ろうとすることって大事やし。始まってまだ3日だけど、クラ

スはどう思う？」

B男「なんか、みんなすごい頑張ろうとしとる！A男とかすごい一生懸命やでびっくりした。」

佐々木「でしょう。小学校の時や1年生の時の姿とは、違うなあっていう仲間がたくさんおるやら！だからこそ、この頑張ろうっていう雰囲気にも上手くのっていきよ！そういう仲間のいい所に引っ張ってもらいながら、頑張ってみ！！」

A男「分かった！頑張るわ！」

こんな会話をしたのは、始業式から3日目の放課後。違反靴（黒）を履いてきたため、その指導を受けた報告を私の所にしにきたB男。でも、4日目には、今度は黒と白のチェッカーフラッグの靴。他の先生方からの指導、注意を受け、かっとなり、職員室で靴を投げ捨ててエスケープ。その後、固まったまま何も言わないB男の隣で40分間、ずっと話し続けた。

「言われたことは全部分かってるんだよね」「分かってるのに、ルールだ！って何回も言われたのが嫌やったの？」「今、白い靴を準備してもらってるんやもんね。」「さすがにこの靴では学年レクは出れんと思っただけで貸し出し用の靴を履いてレクはやったんやもんね。」「今までやったら、もっとキレて、教室でも暴言はいっちゃうけど、それはまずいなって思ってるから、別の教室におるんだよね！」「本当は言い返したかったけれど、何も言えなかったから余計に悔しいんだよね」などなど。結局何も答えず早退したB男。すぐにお母さんと連絡をとり、状況の確認や、その後の動きを相談した。夜、母から連絡がきた。

今日のこと、本人に聞きました。

靴に穴があく（それを良いことにお気に入りの靴を履いて行っちゃった）→先生に注意される→理解する→でも〇〇先生から念をおされる→分かってる→▲▲先生に校則についてもう一度言われる→分かってる！！→最後にもう一度言われる→しつこい→怒る→帰る

が、一連の流れだったようです。「マキ先生に言ったもん！新しい先生たちなんて、僕のこと何にも知らんのに！マキ先生が分かってたらしいの！」とっています…。

そして、翌日。実は、学年レクでアキレス腱断裂をし、あまり歩けないままB男の対応をしていた私は緊急入院、即手術となってしばらく学校をお休みすることに…。そんな中でも、B男には、学年の先生やお母さんが話をしてくれた。A男とC女は私のいない中で、リーダーとしての動きを見せてくれた。

先生がいないから頑張らなければいけない！！そんな思いで一人一人が動き出し、頑張ってくれていた。1週間ぶりに学校に行くと、一番にB男が私を助けようと動いてくれた。食器の片付け、松葉づえの準備、気付くと近くにおいて世話を焼いてくれた。これまで掃除の時間にはどこかへ出かけてしまっていたB男が学年通信の中に掃除を頑張る3年生として紹介されていた。

いろいろな先生方が、子どもたちの様子や性格、特質を考え、一緒に相談しながら関わってくださることが本当にありがたいと思う。まさかの松葉づえスタートとなった平成31年度、子どもたちは「平成最後の中学3年生」「史上最高の3年生」を目指して生活しようとしている。なんとか、そんな子どもたちのやる気を大切にしながら、今年度もほっとできる学級、学年を創っていきたくて強く感じた。それとともに、担任がいなくても、班編制ができる子どもたち。仲間同士のことをじっくり見つめて意見を言い合う子どもたちの力に感動をした。思うように動けず、教科担任のように過ごす私に、優しく頑張る子どもたち……。やっぱり、子どもたちの力はすごい！！

そして、6月、東京への宿泊研修。車椅子、松葉杖の担任。リーダー達が本当によく動いてくれた。全ての移動をどのクラスよりも素早く、気持ちよく動こうと何度もリーダー達が声をかけた。少し時間があると、振り返りをしたり、声をかけたりする姿があった。集合に遅れてしまった班をひたすら静かに待つ姿。夜の執行部会では、何が足りないのか、もっとどうすればいいのかを自分たちでどんどん話し合う姿があった。遅れてしまったことを申し訳ないと感じていた班長が涙を流した。そんな仲間を励ます姿も印象的だった。こんなにも、大きな声を出さなくていい宿泊研修は初めてだった。

たくさんたくさんほめてもらった子どもたち。

担任のピンチ（←私だけが思っていたのかも…）は特に、子どもたちには影響しないらしい。

自分たちの力に変えていく姿に勇気をもらった。

### 3. うまく伝え合えない子どもたちの思いの橋渡し役を

#### 【体育大会の取り組みから】

本校の体育大会では、事前取り組み（時間、服装、声、大縄記録会）での優勝。そして当日の学年優勝、総合優勝と3つの大きな目標が定められている。これまで毎回練習前に行っていたデシベル測定での「声」の部門はなくなり、全体の練習の中での1回のデシベル測定が残った。

3年生として、最後の体育大会。

団長はA男、副団長にC女という学級委員コンビが決定した。最初はリーダー（団長）に立候補していたB男だが、事前の活動（学年のリーダーとして）を行うことができず、自然と立候補辞退という形になった。

佐々木「本当にやらないと決めてもいいの??」

B男「うん。いいわ。だって、どうせAとCになるんでしょう。事前の取り組みとかやってないし。もし、これで僕が団長とか決まっちゃったら後から陰で何かグチグチ言われるのもいややし。僕が団長になると、Aとか、なれんかったことにショックだろうから、やめとくわ。」

佐々木「・・・(無言)」

頑張るみんなの様子についていけなくなり、朝早くからのリーダー会や休み時間を使った会に参加できていないことはすべて飛んでしまい、「自分が選ばれるはず」と話すB男の様子に正直驚いたが、こういうふうには自分表現することができないのだろうとも感じた。周りの気持ちをなかなかしっかり受け止めることができないこと、本気で一生懸命になれないところがB男の生きづらさになっていかなければいいとすごく感じる。

そして始まった体育大会の取り組み。1年生、2年生と縦割りのクラスと一緒に「日常」を大切にしようという取り組みを始めた。体育大会のスローガンは「渾身・1心・躍進→最紅の笑顔」一人ひとりの笑顔を大切にしようというリーダーたちが動き始めた。

全員跳びで行う大縄の練習も始まった。リーダーたちが決めた回し手はA男（長身）とA男と仲の良いD男。そして大縄の跳び位置もリーダーたちから発表された。それを見たB男は、「なんでやし！あいつじゃ回せんやろ。俺の方がうまいし！」と大きな声で批判を始めた。

佐々木「どうする??B男が言っていた声聞こえた？」

A男「先生、あいつは放っておきましょう。どうせしっかりやらんし。」

佐々木「でも、去年も回し手をやってたよ。」

A男「無理ですよ。あいつと回すのは・・・ろくに話もしてないやつと回すなんて本当に無理ですから。言いたければ言わせておけばいいし。練習だってどうせ参加しないんだから・・・だったらDと回した方がいいし。あいつとはやりたくないんで。」

佐々木「わかった・・・」

と始まった練習。B男は練習には参加しない。大縄の練習をしているクラスの仲間がいるのに、バスケットボールをもって昼休みはバスケをして遊ぶ。それを見ながら女子も男子も不満が募っていった。そんな中で、体育の授業。A男とD男が回しているところで、急にB男がDと回し手を変わり、勝手に縄を回し始めた。うまくいかない練習。

A男「本当いやなんですけど・・・」・・・B男と一緒に回す時は一切声を出さないA男。

自分が回さない時は、わざとひっかけ練習をとめてしまうB男。

「どうせ、B男は朝の練習来ないやん！」というC女。

練習が進まない中でのみんなのイライラ。自分の都合のよい時だけ回し手をする。できない人がいると強く声をかける。気持ちが乗らない時は参加しない。

そんな中、ついにA男とB男がやり合い、B男は教室に入らない・・・。我慢できず早退したり・・・。

佐々木「ねえ、どうする??このままじゃやっぱり大縄どころじゃないよ。」

A男「もうどうでもいいんですよ。ただあいつが本当に回すんなら、本当は僕はやりたくないけど・・・でも・・・。」

佐々木「そこを頑張ってくれんかな??これまでずっと回し手を務めてきた二人が回したら本当にすごいと思うんだよ。もちろんB男が本当に回し手をやる!って言ったら、朝練習も必ず来るように話をするし、そこは守らないかんところは絶対に伝えるからさ・・・。」

A男「いいですけど・・・。でも、本当にふざけてやるのとかは嫌なんで・・・。」

佐々木「わかった!じゃあA男がどう思っているかを私がB男に伝えてくるから、そのあと必要だったらちゃんと伝えてくれんかな??」

そして、教室に入らないB男のところへ

佐々木「ねえ、どうするの??」

B男「もういいし!!」

佐々木「本当にいいの??回し手やらなくていいの??」

B男「だって、勝手にきめられとったやん。俺じゃないやつに!」

佐々木「それは、朝の会とか休み時間とかに発表されてたやん。本当にやりたかったからちゃんと言わなきゃだめだよ。」

B男「俺の方が上手に回せるのに、みんなわかってないし、こんなんやったら勝てんわ。」

佐々木「じゃあ、ちゃんとA男と話したらどう??でも、本当に回し手をやるんやったら、ちゃんと朝の練習にも来ないかんし、一生懸命できる？」

B男「やらんし、もういいやん。」

佐々木「でも、A男も伝えたいことがあると思うから、一回ちゃんと話をしたらいいよ！」

B男「話すことないし! やらんでいいやん!!」

A男を呼ぶ。それまでホールでゴロゴロしたり、座ったりしていたB男はA男が来る前には、しっかり立って待っていた。

佐々木「A、Bに伝えたいことあるよね!?先に伝えてもらってもいい??」

A男「勝手に回し手とか並び順とか決めたと考えていると思うけれど、あれは、リーダーたちで決めたもので、やっぱり毎回の練習を一生懸命やってほしいと思っていたから、練習中に回し手じゃない時にふざけたりとか、練習に来なかつたりするのはやっぱりおかしいと思うもので……。もし本当に回し手をやろうと思っているんだったら、本当にちゃんとやってほしいんだけど。」

B男「俺は、本当に一生懸命やりたいたいと思っていて、朝とか来れなくて……。でもちゃんとやりたいたいと思ってるから。」

A男「一人だけ朝練習も来てなかったから、それなのに急に回すし!とか言われてもやっぱりそれはおかしいし。本当にやるって決めたんなら、ちゃんと来てやってほしい。そして二人で回すようにしたいし。」

B男「うん。わかった。」

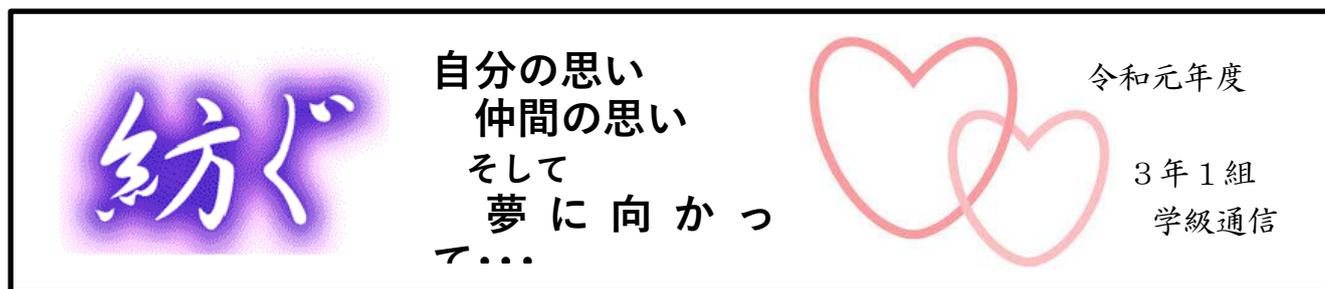
佐々木(涙)

帰りの会で

A男「なんか、今までぐちゃぐちゃしちゃったけれど、二人で回すことにしたので、協力して頑張って跳んでほしい。」

B男「今までちゃんと参加しなかったけど、明日朝早くから来て頑張るから、お願いします。」と伝えた。174センチのB男、192センチのA男に囲まれて涙の佐々木。

翌日、B男は朝7時にグラウンド整備を始めていた。そして行った朝の練習、64回の記録が出た。B男と話すと、朝5時半に起き、6時半には家を出たと教えてくれた。0(マイナス100)か、200という動きしかできないB男を同級生の仲間達が理解し、一緒になって動くことの難しさを感じた。それと共に、私の前で「もうどうでもいい」「別にいいし…」と言えは言うほど、「別によくない」「何とかしてほしい」「どうしたらいいか分からん」そう伝えてきていることも改めて理解した。



## 最後の体育大会・・・この仲間で「最後」を大切にしたい。

B男

僕は、今年、3回目の大縄の回し手になった。これまで2年間も回し手をやって、回し手が本当にきついのも分かっていたけれど、やりたいと思っていた。それは、みんなに声をかけながら、みんなで一緒になって取り組める大縄が一番クラスの力を表すことができる競技だと思っていたからだ。

でも、回し手や跳ぶ順番が決まった時、自分が回し手に選ばれなかったことで、正直、体育大会に対して「もうどうでもいいや」と思う気持ちがあった。朝も練習に参加できなかったし、頑張りたいと思っても、それがちゃんとできなくて、どうせ周りから言われたり、バカにされたりするんじゃないかと思う自分がいた。これまでも、自分では一生懸命やっているつもりでも、それが分かってもえなかったことがあったから、どうせ今年もと思ってしまった。どうせかげで言われるし、こそこそ悪く言われるぐらいなら、もう一生懸命になりたくないと思っていた。

でも、先週の木曜日、A男が「やるって決めたら最後まで一緒にやろう。最後まで頑張ってやってほしい。」と言ってくれた。そうやって認めてもらえたことがすごく嬉しかった。朝練習とか昼休みの練習に参加しなかった自分が悪かったと思ったし、やっぱり回し手をやって、精一杯最後まで頑張りたいと思った。金曜日、朝の練習でも昼の練習でも本気で頑張ることができた。まだまだ回数はこれからだけれど、クラス全員で最高の大縄を跳びたいと思う。

C女は、どんな時にもいつもすごく大きな声で頑張っている。「1. 2. 3」の声を最初から最後まで頑張って出し続けてくれている。自分が回す一番前で大きな声を出してくれているから、自分も縄を回しながら大きな声で頑張らなくてはと、いつも思っている。それに、日常の授業の中でも、誰よりも大きな声で反応をしている。たまに、違う場面でも反応をしてしまう時があるけれど、しっかり声を出しているのが本当にすごいと思う。やるときはやる！という、C女の姿は本当に見習いたいと思う。教室にいても、後ろの席から奏愛の声が聞こえると、自分も声をださなきゃ！と思う。

Nは、Rの代わりに急にお足のチームをひっぱることになったけれど、本当に一生懸命声を出していて、すごいと思う。

そして、A男。団長でもあり、学級委員としても、みんなに一生懸命関わってくれている。みんなを集めて分かりやすく指示を出してくれたり、伝えてくれたりするから、次にどうしたらいいかがよく分かる。大縄を回していても「もう少し後ろに下がって」「もう少しゆっくり回して！」と声をかけてくれる。その声があると、すごく安心するし、よし！頑張ろう！という気持ちになって練習に向かっている。

A男から声をかけてもらえたことで、今、もう一回頑張ろうという気持ちになることができた。自分自身もまだ一生懸命できていない所がある。でも、この体育大会も「最後」だし、大縄をこんなふうにみんなでもやることも「最後」だと思う。これからの時間も「最後」がたくさん待っている。いくら後から戻りたいと思っても、そうすることはできない。だから、その一つひとつの時間を大事にして、人一倍頑張っていけるようにしたい。

## 授業も、日常も大事にできる31組で大縄優勝したい。

A男

いよいよ最後の体育大会まで1週間で切った。僕は、「軍として」と考えるよりもまず、31組がクラスとしてまとまるのが大切だと思う。3年生が姿で見せることで、1、2年生も僕たちについてきてくれると思うし、その結果が勝ち負けにもつながってくるのではないかと思う。

今年、僕は団長に立候補した。最後の体育大会でみんなの前に立ち、誰かにひっぱってもらい、誰かにやってもらい体育大会ではなく、自分がまず声を出し、自分から考えて動く体育大会を創りたいと思ったからだ。

ここまでの練習や日常を振り返ると、まだ「上手くいっている」とは言えないと思う。金曜日の大縄練習や全校での練習は、全員がさっと集まろうとして、すばやく行動する姿があった。だから、大縄も記録が伸びてきて、一生懸命みんなで跳ぶことができたと思う。でも、昨日の昼休みの集合は遅かったし、全校での開閉開式の練習の集合も、3年生の姿が見本となる姿ではなかったように感じている。

僕は、体育大会の中でも一番、大縄に力を入れたいと思っている。「優勝」ということ、勝ち負けを求めているわけではない。大縄は、クラスでこれまで積み上げてきたことや、31組の力が全て出る競技だと思う。だからこそ、大縄を1番大事にしたい。

大縄の回し手が木曜日の帰りに決まって、金曜日から本格的に始まった。

回し手を決める時、正直な気持ちを言うと、大縄の時だけ、体育大会の時だけ、頑張るのではなく、体育大会を日常の1つとして考えて取り組んでいきたいとずっと考えていた。だから、本当に時間ギリギリまで正式な回し手を決めることができなかった。でも、木曜日にB男と話をし、「やるなら最後まで、本番まで一生懸命やる」ということ、「大縄で学年優勝を目指す」ということを確認した。それまでの間に、いろいろ思うことはあったけれど、同じ目標をもって、今、精一杯頑張ろうと考え、練習に向かっている。なかなか記録が伸びなかったり、すぐに引っかかってしまったりすることもある。でも、それを支え合い、責めるのではなく、声をかけ合うことで、みんながさっと仲間に入れて、練習ができる。これは、本当にすごいことだと思う。こんな31組だから、僕は、嫌な気持ちで大縄に向かうのではなく、最後の大縄を31組みんなで頑張りたい。

最後の体育大会まであと少し。高校ではバラバラになってしまうし、遠くに離れる人もいると思う。体育大会だけではなく、卒業までのあと半年、いろいろなことをみんなで作っていきながら、最高の思い出を作りたいという思いもある。

残りの日々の中で体育大会のことは、もちろんだけれど、やっぱり「日常」「授業」を大切にできる31組にしていきたいと思う。

Kは、今までと比べると、給食のはじまりも終わりもすごくはやく、配膳台を拭いてくれている。本

当に早くなって、自分の係の仕事をしっかりやろうとしてくれている。女子も声出しや、練習の中での声をしっかり出してくれている。Rがいない時、MやKくん、TはRの分まで係の仕事をして助けてくれた。MさんやKさん、Hさん、Yさん、C女は、Fさんが一人にならないように、さっと自分たちから声をかけて関わりを作ってくれている。分からないこともたくさんあると思うけれど、そうやって関わってくれることで、クラスが1つになって取り組んでいけるから、本当にありがたいと思う。

まだまだクラス全員が全力かと言われるとそうとは言い切れない。まだまだできると思う。だから、自分も本気で全力でみんなを引っ張っていきたいと思う。最後の体育大会、31組が一つになれるようにしたい。

学活の前に、A男、B男、それぞれに思いを聞き取り、作文と一緒に作った。A男は、「あっ、作文ですか??」と言いながら、本当はB男のこを受け入れるのは難しいという思いと共に、でも、このメンバーで頑張りたいという思いを語ってくれた。「いつもありがとうね」と伝えながら、たくさん話をする事ができた。

そして、B男。「ちょっと話を聞きたい」と持ちかけると、「作文やらあ…だと思った!」と言いながらウキウキで話を始めた。

佐々木「どんな思いで今、取り組んでいるの?」

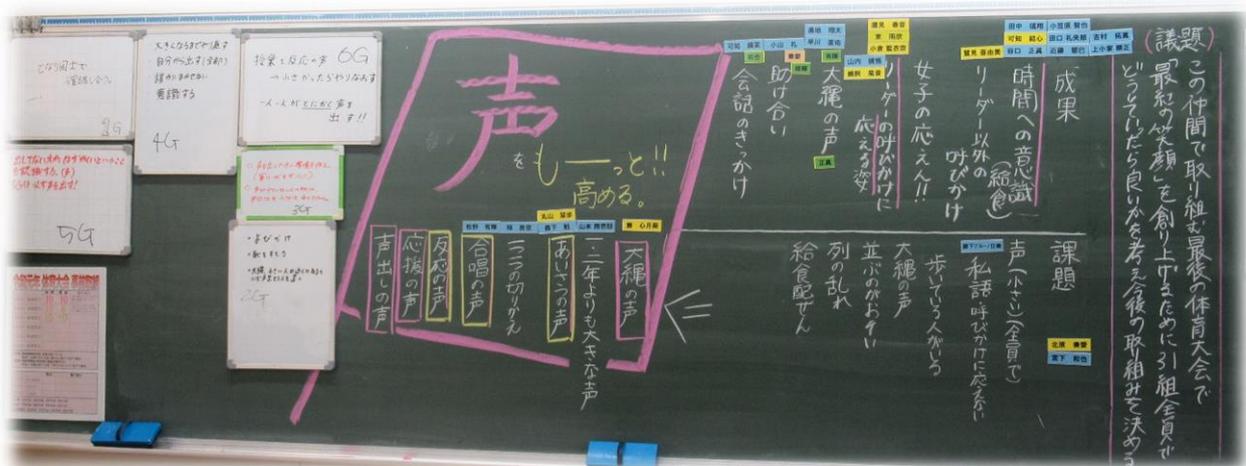
B男「そりゃあ優勝したいやん!」

佐々木「まあ、そうだね。でもさ…いろいろと思う所はあったと思うけれど、A男と話をしてみてどう思ったの??」

B男「やっぱりさ、俺が回し手やらんとうまくできんやん。…(延々と続く)」

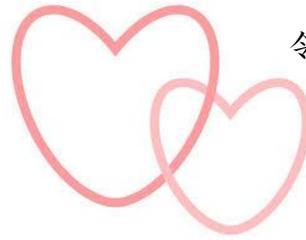
佐々木「最後まで精一杯できるといいよね!」

B男「うん。まあ、これで終わりじゃないもんで。体育大会終わったら、次は合唱発表会があるやん。まあ、3年生やもんで難しい曲に挑戦するやん。まあ、俺がソロをやった方がいいんならやるし、別に複数で歌わんくても、ステージで一人で歌えてなるんなら、それぐらいできるし…。俺やないといかんと思うし…(続く)」佐々木「(無言)…」このまま作文に載せるのは、危険だと判断。



紡ぐ

自分の思い  
仲間の思い  
そして  
夢に向かっ  
て...



令和元年度

3年1組  
学級通信

## 想いを分かち合い・・・みんなで跳んだ166回☆

### <仲間の思いを聞いて、考えたこと>

A 男：今回の話し合いを聞いていてもみんな大縄はもっと頑張ってやらなければいけないと感じていました。僕も一番そう思っているし、みんなのその気持ちがあるので絶対に一位をとらなければいけないと思います。だから挨拶、合唱、反応の日常の声を高めていき、応援、大縄でその高めた声をすべて使いきり一番声の出る軍にし、学年優勝をとりたいです。

C 女：まだ完璧ではないし、全員が全力で取り組めているとは思えないけど、二人が言うように本当に最後の体育大会で中学校という義務教育最後の体育大会を全員で最紅の笑顔でやりきりたいと思いました。

N：色んなことがあったけれど、心の底は、みんな同じなんだなと思った。頑張ること、また人に対して文句を言うような人はこのクラスにはいないんだろうなと思った。頑張ってみることに對しての安心感を得られたし、A男やB



男のように頑張っている人を安心して支えられるなと思った。まだまだできる具体的なことの再確認もできたし、これからすぐに動いていけそう。

AO：回し手は跳ぶ人よりも大変だけど、仲間のことを想ってくれていたり、ひっかかってもすぐ声をかけてくれたり、人一倍頑張ってくれているので、私も大縄がスムーズにいうように、声をかけ、引っぱっていきたいです。そして、最後まで諦めずにやりきりたいです。

AS：二人の話聞いて、最初はすごくギクシャクしている状態で絶対にこの二人は一緒に大縄の回し手にはならないのかなと思っていただけ、今は、この二人が回し手をしてくれるということに本当に感謝しています。少し不安もあるけど、それでも頑張って、良い記録を残そうとしてくれている2人の思い。それを私は、少しでも手伝えることが必ずあるので、声を出すなどして「最後」の体育大会を

～最紅の笑顔～で終われるように2人の声に乗っかって頑張りたいです。

YK：私は、軍リーダーじゃなくても、仲間のために動く人がすごく増えていて、日常から「最紅の体育大会」に近づけているのでとても良いと思いました。軍練習では、軍リーダーが中心となって、紅軍全員がまとまってきていると思う。大縄では、声が全員ではないと思います。だから、今日グループごとに出た案を意識していきたいです。

RH：「最後」の体育大会。やっぱり、最後は、笑顔で終わりたいです。たくさんみんなが呼びかけたり、それに応えたりしたことで、「今」の31組があると思います。世界に1つだけの「今」の31組があります。このみんなでやり切りたいです。スローガンで「最紅の笑顔」とあります。みんなが輝くような笑顔で、体育大会を終えられたらいいなと思います。

RT：最紅の体育大会にしようと、一人ひとりが呼びかけをしたり、練習の所ではサポートしたりしてくれる人がたくさんいる。その中でもこの大縄の回し手の二人は、特に頑張ってくれていると思う。A男さんは、団長として、自分から行動して軍の人たちをまとめてくれていて、本当に仕事が多くて大変だけれど大縄を一番大切にしようとしていてくれる。B男さんは、回し手で上手くいかない時があるかもしれないけれど、めげずにみんなのことを思って頑張ってくれている。

ST：自分も中学校生活最後の体育大会を最高の思い出にしたいから、この二人のように、まだ不安な部分も多々あるから、自分から動いて、2年生、1年生にも見本となれる姿を示して、軍で一致団結できるようにしたい。A男が言ったように、本当にいろいろな人が仲間のためを思って動いてくれているから、軍リーダーとして自分も仲間のことを考えた行動を進んでしていきたい。

YM：体育大会に真剣に取り組む人がたくさんいて、そんな人たちの迷惑にならないよう、自分も一生懸命頑張っていきたいと思った。

KU：31組にこんなに「体育大会」に対して、一生懸命頑張ってくれる人たちがいるんだなと思いました。私は、リーダーたちに呼びかけられて動いていたけれど、リーダーたちに頼ってばかりじゃなくて、自分から意識を持って動いて、呼びかけができるような人になりたいと思いました。残り一週間も無いけど最後までみんなで全力で頑張りたい！！！！

MA：二人のインタビューを聞いて、本当にこの体育大会を31組全員で全力で頑張りたいと思っていることが伝わった。だから、自分もその思いに応えられるよう、指示にはすぐ反応したり、大縄でも最後までしっかり声を出して頑張っていきたいなと思った。それに二人の作文の中には「最後」という言葉が数回出てきていて、この31組のメンバーで何かを取り組めることも最後へと近づいているし、卒業したら、このメンバーで何かをできることもないから、今をしっかり大事にできるようにしたい。

B男：今までも何回もあったとおり、ひっかかった時や、待っている間、私語が本当に多い。跳び手次第で記録が変わってくる大縄は、本気でやりたいし、絶対に優勝したい。足を高く上げて跳べば絶対にひっかからない。跳ぶことなんか正直言うと本当に簡単。ひっかかった時に笑ったりしてる人、「ひっかかる」ということは「本当にだめだ」「周りに迷惑をかけている」という意識をしっかりとって本気でやってほしい。(声も出して欲しい。)

JK：3年生になると最後になることがたくさん出てきて、それが体育大会も一つの最後で、この体育大会を全力で取り組むことによって、みんなの最高の思い出がつくれると思うので最高の体育大会を31組で作りあげたいです。勝ち負けはあるけど一番良い終わり方はみんなの思い出に残る終わ

り方をしたいです。

IK：中学校最後の体育大会を最高の体育大会にしたいという思いで大きな声を出したり、呼びかけ合って一生懸命頑張っている仲間がいるから、その仲間の期待に応えられるように自分も声を出して頑張っていきたいと思った

RT：31組の熱い思いを聞いて、自分も今までよりも全力でやろうと思う。さらに呼応や時間などの意識を強めていったりして、31組全体が団結した姿を見せる。達成感が味わえるような31組にするため一人一人が全力でやりきる。

MG：B男さんとA男さんの作文を聞いて、二人が最後の体育大会に向けてすごく強い思いがあるんだなと思った。私も最後の体育大会をどんな結果であっても良い形で終われるよう大縄やリレー、応援の声とか頑張っていきたい。軍リーダーやクラスの人たちの呼びかけに応えて頑張って良かったと思えるような体育大会にしたいです。

KM：仲間の思いを聞いて、大縄は、クラスの団結力や一番力を出せる競技だと思うから、自分もみんなの思いに応えていきたいし、最高の笑顔で最高の体育大会にしたいと思います。回し手の二人も大変だと思うけど、みんなの力が一つになってこそ、達成感のあるものになると思うので、最後まで頑張りたいです。

KM：僕は、仲間の思いを聞いて、全員が互いに助け合ったり、協力し合ったりしていて、自分たちの最後の体育大会に向けて、全力を出して、頑張ろうとしていることが分かりました。

SY：2人の想いを聞いて、日樂さんはこれまでの思いと回し手としての責任感というものをたくさん感じて、それでも最後まで回し手を頑張ろうとしている姿がとても尊敬した。A男さんは、いつも軍全体をまとめていることも、これまでに何度もすごいと思っていただけで、31組の最後の体育大会というのを大事にしている、自分あまり最後というのにこだわりがなかったけれど、A男さんとB男さんの思いを聞いて、頑張ろうと思ったし、やっぱり協力していきたいし、本気で頑張っている人を本気でサポートしたい。

MO：みんなを引っ張ってくれている二人がこんなふうに考えてくれていたんだと思うと、もっと自分も頑張りたいと思ったし、全員で頑張りたいと思いました。最後の体育大会だから、この31組全員で創り上げていきたいです。1年生や2年生にも示せるような3年生としての姿を大切に、最高の体育大会にしたいです。

RK：初めて仲間がこれほどまでに、大縄に気持ちをもってやってくれていたことを知りました。僕もこの2人のかたほどとはいかないけれど、大縄だけでなく、最後の体育大会をもっといいものにしたいという気持ちは、かなりあるので、自分の苦手な声出しもしていきたいです。手を抜いたりなど、このクラスに迷惑はかけられないので頑張りたいです。また声出しだけでなく、姿で示せるように、できるだけすばやく動き、3年生の意識をもってやっていきたいです。

YH：課題で声のことや並ぶ時のことが出ました。私もあまり声を出すということができていなかったのと思うので、たくさん声を出していきたいと思いました。列が乱れている、並ぶ時に歩いているというのも出ていたので、3年生の姿としてふさわしくないで、1、2年生の手本となれる姿を大切に、キビキビ動いていきたいです。

HT：二人の話聞いて、本当に頑張ろうと前向きな姿がよく分かったし、軍リーダーの人たちも大きな声を出したり、呼びかけをしたりしてくれています。だから、その人たちの思いに応えられるよう

に、私も全力でやっていきたいと思いました。まだ不安だという人が半分以上もいるので、今日出た課題などを直して「全員」ということにこだわって、一人ひとりがやるべきことをやって達成したいと思います。

TY：仲間の思いを聞いて、僕はみんな最後の体育大会で、大縄やお足、優勝したいという気持ちが伝わってきました。A 男は学年優勝を目指すと書いてあったから、僕は声を出して、これからの練習にも頑張っていきたいです。

HT：今、仲間の思いを聞いて、回し手二人がこんな思いでやっているんだと知って、私は大縄の時もいつも、後ろのAOさんや結心さんに頼ってしまっていたところがあったので、しっかり声を出して、一人ひとりが声を出せば、今の跳んでいる回数の2倍くらいは跳べると思う。今まで声を出せていなかった分、しっかりと声を出して、この学年で1番多い数を跳びたい！！って思いました。

SK：二人の思いを聞いて、体育大会に対しての思いなどが伝わってきた。ほとんどの人がこの二人と同じ思いで体育大会に向けて練習をしていると思う。本当に中学校最後の体育大会なので、このクラスでまとまって悔いのない体育大会にしたいと思います。

KT：回し手の二人とか、みんなの意見で名前が出た人は、最後の体育大会を全員で楽しく思い出に残るような最高のものにしたいと強く思っていて、仲間のことをすごく見ていて支えてくれていて、すごいと思った。でも、それ以外の人たちも、みんなの見ていない所や裏ですごく頑張っていて支えてくれるから、私も今まで以上に声出しとか日常生活を頑張って『最紅の体育大会』にしていきたいです。

MK：みんなもとても頑張っていて一人ひとりが声を出そうという意識も高くて、特にクラスで頑張っている大縄は、誰よりも早くその場に行き、その呼びかけとかでも、31組は早く行動できるのは、リーダーのみんなのおかげでもあるから、早く行動し、早く練習もはじめて、たくさん大縄を跳びたいです。

FK：最初に思ったのは、僕はまだまだだなんて思いました。みんなの考えや意見を聞いて体育大会や日常生活をどんな気持ちでやってきていたのか、僕みたいな生半可な気持ちで挑んでいるのでは、本気で「最高」を創ろうとしているのだと知りました。今日をふまえて、僕自身、変わるかは分かりませんが、変わる勇気もてました。どんな時でも、僕の勘違いかもしれないけれど、僕を仲間とってくれているみんながいる。それに応えられるように、本当に仲間と思ってもらえるように、僕は変わりたいと思いました。

KM：恥を捨て、1、2年生の方が、声が大きかったのではなく、3年生が一番大きい声だったと言われるように頑張っていきたい。最後なんで、どんなことも頑張っていって、1、2年生に31組が尊敬されるようにしていきたい。そのためにも、無理とか思っても限界をこえていって、大縄では回数、リレーでは、全力をモットーとしていきたい。

SY：真剣に体育大会に取り組んでいる仲間がいるんだってことをあらためて感じた。そんな仲間を僕たちがサポートしていって、義務教育最後の体育大会を最高にする。大きな声を出し、紅軍が一番になるようにしたい。団長、副団長、軍リーダーの呼びかけにすぐ応じるようにしたい。

YS：仲間の思いを聞いて、私はもっと頑張りたいと思った。中学校最後の体育大会で優勝を目指して、頑張っていきたいと思います。「優勝」ということは、勝ちを求めているだけではない、一人ひとりが頑張ってきたら、それも優勝だと思っています。仲間との関わりを大切にしていきたいと思います。最

後の体育大会をみんなで頑張りたい。最高の体育大会をつくりたいです。

TO: A男さんとB男さんの話を聞いて、僕はこれだけ、体育大会のことを考えて取り組んでいる仲間がいるし、みんなとは最後の体育大会になるけれど、本番だけじゃなくて、練習から全力で取り組んでいきたいと思います。あと、僕はまだあまり声を出せていないし、二人みたいにはできないことがあるけど、自分にできることを考えて行動したいと思います。



中間振り返りからの大縄記録会。1年生1位、2年生2位、もう跳ぶしかない！！3分間ノーミスで跳び続け、記録166回。本当にみんなすごかったよ。精一杯声をかけ、精一杯一人ひとりが大縄に向かったからできた31組の宝物。

仲間の思いを心に置き、そして、自分が一生懸命になれる=これこそ、「最紅の笑顔」へ続く道だと思います。

本番まで、あと3日。限りのある時間をどう使うか！どう生かすかです。

今日は、総練習の中で、お足の記録会もあります。

今度は、軍として頑張る場面です。チームリーダーである軍リーダーを支え、声を出すこと。一人ひとりの精一杯を今日も大切にしよう。

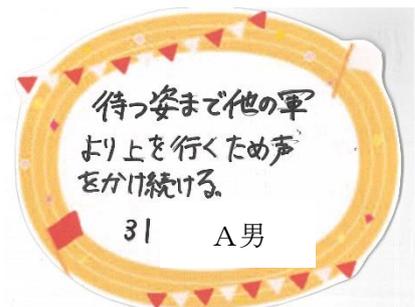
**31組が「最紅の笑顔」を創るために全員で大切にすること！！**

声

- ①あいさつの声 ☆1 ☆声出しの声
- ②反応の声 ☆2 ☆応援の声
- ③合唱の声 ☆3 ☆大縄の声



中間振り返りの学活の後、行われた大縄記録会。そして、翌日、一人ひとりの思いを通信に載せて仲間にひろげた。全員の思いを載せた通信を配ることは何度か行ったが、やはり仲間の思いを読み合う

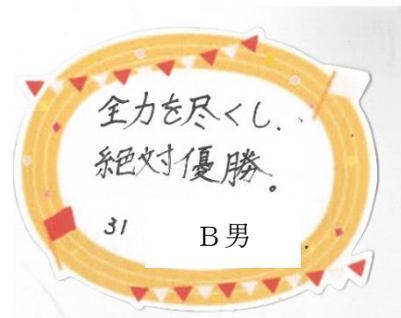


時間が一番穏やかな雰囲気になる。「思っていること」「感じていること」が上手く伝え合えない子どもたちの思いを代弁したり、立ち会って語ったり、そんなことをくり返しながら、子どもたちが繋がり合えることを大切にしてきた。



た。B男は、当日テントの中でもなかなかクラスの仲間と関わり合えず、居場所のなさを感じる様子があったが、大縄に全ての力を出し切っていた。意図的ではなかったが、リレーでは、A男からB男にバトンが渡った。頑張りたいという思いを行事以外の所でも伝え合えるような配慮が必要だと強く感じた。

子どもたちは、手にした「取り組み優勝」をすごく誇らしげにしていた。「最紅の笑顔」にこだわり、日常を大切に続けた取り組み期間だった。



体育大会、結果は、学年優勝もとれず、総合優勝も

とれず、前日まで最高記録を更新し続けていた大縄も、本番は隣のクラスに回数を抜かされてしまうという状況。それでも、全員で跳んだ大縄 217 回。最後までA男とB男が回しきり、全員で声をかけ合っ



#### 4. 子どもたちの鋭い目、だからこそ嘘のないように子どもたちと接したい！

3年越しの学級委員、団長を務めたA男は後期生徒会副会長に立候補した。そしてC女は生徒会長に立候補。公約の中に、「学年、学級で取り組みや思いの差がないようにしたい。」という願いを何度も話していたA男に学年主任が話をする場を持ってくれた。

「どうして一生懸命頑張れるのか？」「なぜ、学年や学級での取り組みの差をなくしたいと思うのか？」という問いに、A男が答えたことを教えてもらった。

A男…1年生だから、ここまでできればいい。2年生はここまで…というふうに、学年ごとにクリアするものを変えるのは何だか違うと思う。目標をもって、そのことに努力をしていけばいいことだし、それができるように、後輩をサポートしたり、みんなで助け合ったりして、いけばいいと思う。ここまでやればいい…というふうに、区切られるのは違うと思う。1年生だって、できることはたくさんあると思うから。僕たちが1年生の時に、給食の配膳タイムも3年生はすごく速いのを目標にしていた、1年生はこれぐらいできれば十分みたいなふうに言われていて、それは違うなあと思っていた。同じ学年の中でも、学級ごとに目指すレベル？が変わるのではなく、みんなでより高い目標をもって生活できるようにするべきだと思う。

東中は、どんどん新しい先生達が入ってきて、1年間でどんなことをするかとか、これはどういう意味があるのかとか分からずにやっている先生が多いと思う。教えてもらって一緒にやっている先生はまだいいと思うけれど、分からないまま何となくになっているから、目標がなかったり、学級の差ができていたりするんだと思う。僕たちのクラスは、先生がもう何年も東中にいて、これはこういうこと！とか、これはこういう目標でやればいい！とかより高い所を目指して生活していると思うから、僕たちもそういう目標で過ごしているから大丈夫だけれど…。だから、僕は学級や学年の差がなくなるようにしたいんです。

学年主任から話を聞き、衝撃を受けた。周りを？教師の動きを感じとっている子どもたち。教師のこともこれだけ見ているのだから、子どもたち同士ではもっといろいろな物を見て、感じているはず。

だからこそ、嘘のないように子どもたちの前に立ちたいと強く思う。感情的に話をする時もあるし、子どもたちに謝っている時もある。でも、どれもその時の、私の本当に気持ちで向き合わないといけないと思う。B男が教室に入りづらくなり、授業を抜けたり、早退をしたりすることが増えてきた後期。B男に授業へ行くように声をかけたり、係の仕事をやるように伝えたり、他の子どもたちに声をかけるのと同じように接することを心がけた。B男だけ特別…確かに特別になってはいるが、B男のことももちろん、そして他の子どもたちのことも、一人ひとりが大切な存在であるということ子どもたち自身が感じとってくれるようにしていきたい。

#### 5. 支えてくださる保護者の方や周りの先生方の力に感謝。

授業に入れなくなってきたB男の様子を母と連絡をとりながら、出来る限り話を聞くようにした。

B男「かげでこそこそ言うぐらいなら、直接言ってこればいい。」

「教室がいやだ。」「あいつらがおるから、行きたくない…。」

そんな中で迎えた合唱発表会。練習もほとんど参加しないまま、前日。周りの仲間をからかうB男の言動に、ついにA男がキレた。つかみ合う直前の二人…。そしてB男は早退。

A男に話を聞くと、「一生懸命頑張っているM（学級委員男子）に、お前本当に音痴やで歌うなよ。ってB男が言っているのが聞こえて…。それからMがすごい落ち込んで。Mとは1年の時も同じクラスでそうやって周りから言われていたことも知っているし、B男の隣の席に自分からなってくれて、すごい頑張ってくれているのに、あんな嫌なことを言われてすごいかわいそうやったし。むっちゃ腹が立って。でも、B男がそんなことなかったみたいに、授業中にA男に話しかけて、Mが答えんかったら、無視するなよ…とか言って。俺は別にB男とは関わらなくすればいいけど、でも、あの態度は本当に腹がたって、悔しかったもんで、お前調子にのるなよ！って言ったんです。」

と、泣きながら話をしてくれた。伝え方や行動（教室の鍵を閉める）は間違っていたかもしれないけれど、A男の気持ちはすごく分かった！と伝え、B男にも話をしたが、「俺はそんなにMが気にしとるなんて知らなかったし、じゃあそういえばいいし！鍵閉めたり、文句いったりするやつが悪い！」と受け付けない…。

どうしようもなく、母の力を借りた。母が間に入り、もう一度、みんなの気持ちを整理して伝えてくれた。「分かっているけれど…」結局合唱発表会本番は参加できず欠席。でも、Mに対して申し訳なかったという思いは伝えてくれた。

B男がいなくなるたびに探してくださる先生方。私に話しづらい時は、学年主任の先生の元を訪れたり、廊下や教室を回って声をかけてくださる学年の先生に愚痴ったり。気にかけているよ！気付いているよ！というメッセージを一緒に送り続けてくださった先生方。

B男の家での様子を細かく教えてくださり、次の手を一緒に考えてくださるB男の母。B男の味方をしつつ、「みんながこれまで我慢してくれてくれたことがたくさんあるんだよ！」と話してくださる母。一人では走り回って一日が終わってしまう私をたくさんの方の目や手や思いが救ってくださったことに感謝。

## 6. おわりに

3年間続けた「ひろがる」（一日の記録）も残り30日ほどで終わろうとしている。週に1回で行った「先生、あのさあ〜」もたくさんの子もたちの思いで継続できた。B男は、途中からファイルをなくし、そして帰りの会に教室に入らない日も増えているが、教室にいる時は、必ず「ひろがる」を書いて提出してきた。彼女との週末の予定。今、欲しいと思っている物。時には、「先生、何書いてほしい??」と聞いてきた。「何でもいいよ！」の返しに「何でもいいのかあ…」と言いながら書くことをくり返した。

先日、B男の面接練習を特別に行った。

志望動機…兄が通っていて面白い学校だと思ったから。

いつも大切にしていること…ゴミはゴミ箱に捨てる！（←熱く思いを語った。）

中学校生活で一番心に残っていること…2年生のクラスでの1年間（体育大会や合唱を頑張ったこと）。

と話した。面接なんて簡単やし、慣れてるし…と口にしていたわりには、緊張でひきつった顔をしながら練習をした。本来ならば、中学3年生での1年間のことを「一番心に残っていること」と言わせてあげたかったけれど、それができなかったことが申し訳ない。

でも、なんとか、彼が、教室で過ごし、残りの日々を頑張らなければと思っていることを、周りの仲間

にも伝え続けていきたいと思う。卒業まであと少し。

最後の授業参観「絆の日」(第一部で3年生は一人ひとり自分の3年間の成長を作文にし、後輩たちの前で語る会)が迫ってきている。作文の構成が終わり、下書きが始まった。B男は「〇〇先生(昨年度の教頭先生)とのこと」というタイトルで構成を考えていた。「毎日声をかけてくれた。自分のことをすごく応援してくれた…」とメモしていた。

一方A男は、「全力で取り組むことの大切さ」というテーマで「1年生の時にたてた目標(3年間計画)よりもさらに上を目指して生活してきたことで、自分の人格が変わったように感じているとメモしていた。」また、「仲間に刺激されて全力で取り組めるようになった。」という言葉もあった。途中まで書いた作文を私の所に持ってきたA男に「どんなこと書くの??」と聞くと、「1年生の数学係をしながら考えてたことからちゃんと書きますよ。」と笑顔で教えてくれた。

卒業まで本当にあと少し。一人ひとりの思いを大切にしながら子どもたちと向き合って過ごしてきた3年間もう少しで終わろうとしている。

A男がこの3年間で自分を変えようと頑張ってきた中で、様々な仲間とのつながりを大切にしていたから、B男に対しても一切受け入れない…ではなく、少しでも理解しようと過ごすことができたと感じてほしい。また、B男も自分の中学校生活を支えてくれた家族、先生方、そして仲間の存在を見つめ、これからの生活でも大切にしていきたいとほんの少しでも感じてくれるとよいと思う。

そんな願いをもちながら、一人ひとりの思いを大切に、「笑顔」あふれる学級解散式を迎えたい。



## 7. おわりに その②

僕は、中学校の3年間で全力でいろいろなことに取り組むことが大切だと改めて感じました。

入学した時、僕は中学生になったから、勉強も普段の生活も今までとは変えて頑張っていこうと思っていました。しかし、リーダーをやってみたいという思いもあまりなくて、前期は数学係をやりました。その時のリーダーの動きを見て、とてもびっくりしました。僕も頑張ろうとおもっていたけれど、そのリーダーたちは、自分よりももっと強い思いをもっていろいろな動きをしていました。その姿を見て、僕もそのぐらい頑張らなければいけないなと思いました。僕はその時から細かな日常生活までも手を抜かずにやるようになりました。そうしていったことで、自分の生活に対する考え方が少しずつ変わっていきました。後期の組織を決める時に、僕はリーダーをやってみようと思いました。でも、周りから認めてもらえるかが不安で少し迷いもありました。その時、先生からチャレンジした方がいいよ！と言われたり、僕の周りにいる人たちもやってみればと言ってくれたりしたので、自信をもって立候補することが出来ました。無事に班長、給食委員になることが出来ました。その時のクラスの配膳は学年で一番と言えるくらい速く、無言でできていました。それを引き継ぐことになり、これよりももっと良い配膳をつくらなければいけないので、少し不安でした。でも、自分が一生懸命に呼びかけをするとそれに応えてくれる仲間がいたので前期よりもよい配膳をつくることができました。初めてリーダーに挑戦した時、仲間がしっかり支えてくれたので、僕はリーダーとしてやっていると自信をもつことができました。2年生になってからもリーダーを続けて行って経験を積んだことでさらに、自信をもつことができました。

3年生になった時、今度は自分から班長よりも重要な学級委員をやってみようと思いました。そして、学級委員、学年副委員長として3年生をスタートしました。学級委員として始まったばかりのクラスをどうすればよいクラスになるのかを全力で考えて呼びかけやいろいろな活動を中心となって動きました。その時に、先生はあまり教室にいなかったため、これで良いのかという不安もあったけれど、31組にきた先生が、31組の授業や良い！とかまとまりがあるとされたので、一生懸命にやれば上手くいくんだなと思いました。その後、団長をやって軍を引っ張っていったり、生徒会副会長として学校を引っ張っていくリーダーにもなることができました。

この3年間で入学したときは、リーダーをやろうと思っていなかったけれど、3年生の時には自分から学校を引っ張るリーダーになろうと思えるようになりました。ここまで成長することができたのは、仲間から小さなことにも全力でやることの大切さを教えてもらったことで、全力でやることで自分の考え方も変わったことで、さらに上を目指せるようになったからだと思います。でも、一人ではそのことに気づけなかったし、先生からも認めてもらえなかったら、自信もなく挑戦できなかったと思います。学校という環境があったから、自分も変わるすることができたと思います。これからは、全力でやることと、周りの人への感謝を忘れずに過ごしていきたいと思います。(A男)

悩みながら書いたA男の作文。「居残りや嫌だったんで、最後はちょっと適当になっちゃいました。」と言いながらも「これでいいですかね??」と聞きに来た。周りの仲間から、そして教師から認められること、自分の力を信じてもらえること、それによって頑張れた3年間を見つめていた。

一人ひとりが自分を見つめる作文完成が楽しみになった。どう語って、卒業していつてくれるのか…。





別紙：【補足資料】

全校生徒… 4 3 2 名

中学 3 年… 1 5 3 名 学年 4 クラス

A 男・・・小学校では要援助生徒であった。

中 1，中 3 と担任をしている。

中学 1 年の時に一緒に考えた 3 年計画（昨年度レポート）を実行中。

中 1 の頃は真面目に頑張ろうとする姿をからかわれることもあった。

（中 1 数学係／班長 中 2 班長／班長 中 3 学級委員／生徒会副会長）

保護者共に、学校、教師に対する不信感が強い。身長 192 センチ。

B 男・・・要援助生徒。中 2，中 3 と連続して担任中。

A 男との関わりはほとんどない。

A 男のようにまわりから認められたいという思いがあるが努力することができない。

中 2 では、男声パートの代表としてソロ（複数）を務めたり、大縄の回し手（練習はほぼしない）を務めたりした。

学校内外問わずトラブルが多い。将来の夢はモデル。

C 女・・・A 男と一緒に小学校では要援助生徒であった。

3 年連続担任中（現在高 3 になる姉も 3 年間担任していた。）

学級や学年を負の方向にリードしてしまうなど影響力の大きな生徒。

女子の派閥の中心にいるが、本当に心許せる人をつくることができない。

認められたいという思いも強く、班長や学級委員などを務めている。

（中 1 学級委員／委員会 中 2 班長／委員会 中 3 学級委員／生徒会長）